

| | | |
|-----|---------------|-----|
| 修正 | 案を修正するもの | 2件 |
| 参考 | 今後の参考とするもの | 6件 |
| 既記載 | 既に案に盛り込んでいるもの | 4件 |
| その他 | 意見として伺ったもの | 15件 |

| No. | 意見 | 意見に対する考え方 | 提出方法 |
|-------------|---|---|---------|
| ＜医療＞ | | | |
| 1 | 座長からもお話があったとおり、人口減の中で今までどおりにはいかない、何かを残さなければならないとなると、医療について言えば、 <u>救命救急センターである砂川市立病院をいかに残すかということが、地域が救急医療を残していくうえで大切なことだ</u> と思う。 | 【その他】 中空知圏域においては、自治体病院等の役割分担や医療機能の見直しを行う中で、各病院の役割を明確化し、地域の医療連携体制を整備してきております。今後も、救命救急センター含め、地域医療の安定的な提供に努めます。 | 懇談会① |
| 2 | 予約時間から診療が始まるまで2時間、3時間遅れることもあり一日仕事ができない。 <u>中心市で良い医療があると言っても、何か違う方法はないものかと考える。地域に診療所もあり、一般的な診療は良いが特殊な部分は地域センター病院に行かなければならない。ただし、通院した結果、地元の診療所でできるような治療や単純な検査だけの場合もあり、それで一日が終わるようなこともあるので、これが本当の医療なのだろうか</u> と不自然に感じている部分もある。そのようなことも解消していけるのであれば良い。 | 【既記載】 I-1-(2)ア 医療体制の充実 圏域における自治体病院、診療所等については、役割分担や医療機能の見直しに関する協議を行い医療提供体制の構築を行ってきておりますが、今後も限りある医療資源を有効活用するとともに、補完し合いながら医療提供体制の構築を進めていきます。 また、各医療機関の連携強化を進めるとともに、電子カルテ化等の基盤整備を進め、将来的には、診療情報共有ネットワークシステムの構築を目指し、医療機関に受診する際の利便性向上を図ります。 | 懇談会② |
| 3 | <u>医療体制の充実ということでの新しい取組としては、病院間のネットワークの構築ということ、病院間をICTを活用して結ぶ</u> というのは常識になってきているのでコストはかかるが実現してほしい。 | 【既記載】 I-1-(2)ア 医療体制の充実 引き続き、診療情報共有ネットワーク構築について、取組を進めていきます。 | 懇談会② |
| ＜福祉＞ | | | |
| 4 | 資料18ページの2.福祉 (1)障がい者福祉の推進 イ 地域活動支援センター事業及び相談支援事業というのがあるが、中空知圏域は広域で行っている。ただし、 <u>芦別市が相談支援事業について外れていて、障がい者に対する相談支援事業が立ち上がっていない</u> 。単独で立ち上げることを検討しているとのことだったが、小さな単位で行うのは難しくなると思うので、今後、 <u>広域で</u> 広く盤石にやっていければ良いと考えている。 | 【その他】 現在芦別市においては、市職員が障がい者に対する相談支援を行っておりますが、市内から身近で専門的な相談支援事業所の設置要望が出されている状況にあり、市としては今後、市内機関の機能設置に向けて検討を進めている状況です。 | 懇談会① |
| 5 | 高齢になっても、一人で安心して暮らしが送れる地域を目指す。 「生活機能の強化に係る政策分野」に「障がい者福祉の推進」と「保育所広域入所事業」が盛り込まれているが、全人口の4割弱を占めている高齢者についての具体的取組を新たに加えてはどうでしょうか？ 高齢者が安心して暮らしている姿を目の当たりにすることでその地域で住みたいという魅力に繋がると思います。 <u>健康面や精神面の不安・リスクを少しでも軽減する支援ネットワークを構築する</u> 。(例えば、 <u>栄養管理や体調管理を目的に学校給食センターを活用した配食サービス</u> や冬場の除雪負担を軽減するための圏域内でのボランティアの連携や業務委託など。) 高齢者については、制度として「地域包括ケアシステム」があり、その面では重複する面もあると思いますが、制度を補完して生活支援の充実を図り、暮らしやすさを実感することが地域の活性化の源となると考えます。 | 【その他】 高齢者を対象とした配食サービスについては社会福祉協議会において栄養管理された食事の提供や安否確認等が実施されているほか、民間事業者においても配食サービスが実施されています。また、児童や生徒を対象とした給食と高齢者を対象とした配食サービスは食事内容や調理数、配送先(学校と個人宅)の面で大きく異なり、施設整備や体制構築が必要となるため、利用者数や民間サービスの状況等を見極めていきたいと考えております。 | 意見集約シート |

| No. | 意見 | 意見に対する考え方 | 提出方法 |
|-----|--|---|---------|
| 6 | <p>高齢になっても、一人で安心して暮らしが送れる地域を目指す。</p> <p>「生活機能の強化に係る政策分野」に「障がい者福祉の推進」と「保育所広域入所事業」が盛り込まれているが、全人口の4割弱を占めている高齢者についての具体的取組を新たに加えてはどうでしょうか？</p> <p>高齢者が安心して暮らしている姿を目の当たりにすることでその地域で住みたいという魅力に繋がると思います。<u>健康面や精神面の不安・リスクを少しでも軽減する支援ネットワークを構築する。</u>（例えば、栄養管理や体調管理を目的に学校給食センターを活用した配食サービスや<u>冬場の除雪負担を軽減するための圏域内のボランティアの連携や業務委託</u>など。）</p> <p>高齢者については、制度として「地域包括ケアシステム」があり、その面では重複する面もあると思いますが、制度を補完して生活支援の充実を図り、暮らしやすさを実感することが地域の活性化の源となると考えます。</p> | <p>【参考】 I-2. 福祉</p> <p>日々の除雪については、降雪状況等により即時の対応が求められることから、地域の実情に詳しく機敏に対応できる身近な団体や事業者等の対応が効率的と考えられます。一方、各市町の社会福祉協議会等に登録したボランティア団体が、1シーズンに数回高齢者宅の除雪を行うなどの取り組みについては、広域的な協力体制の可能性を含めて参考とします。</p> | 意見集約シート |
| 7 | <p>障がいのある方たちが、中空知圏域において安心して安全に安定して生活を送ることの出来るセーフティーネットの構築</p> <p><u>第4期障害福祉計画に係る国の基本方針の見直し</u>について</p> <p>◇基本方針の見直しの主なポイント</p> <p>(2) 成果目標に関する事項</p> <p>③<u>地域生活支援拠点等の整備</u></p> <p>障害者の地域生活を支援する機能の集約を行う拠点等を、各市町村又は各圏域に少なくとも1つを整備。</p> <p>※拠点を設けず、地域において機能を分担する「面的整備型」も考えられる。</p> | <p>【その他】</p> <p>国の基本方針の見直しに伴い、平成29年度までの成果目標において地域生活支援拠点等の整備が記載されています。現在、基本方針に従い、各市町において第4期障害福祉計画を作成している段階ですので、ご意見について情報共有します。</p> | 意見集約シート |
| 8 | <p><u>「成年後見支援センター機能の広域活用」</u></p> <p><u>中心市の成年後見支援センターが行う市民後見人養成講座や研修会等を圏域内市町村に範囲を拡大してもらえないか。</u></p> <p>(現状)</p> <p>認知症、知的・精神障害などにより、判断能力が低下しても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう成年後見人制度や日常生活自立支援事業が進められています。</p> <p>本制度は、今後、さらに高齢化が進むことにより、ますます必要になってくると考えられています。市町村では、これら制度を活用するために支援を行う「成年後見支援センター」を立ち上げて対応しているところが増加し、将来に向けた市民後見人養成講座や研修会等に取り組んでいます。</p> <p>しかし、現状、過疎地域（市町）では、将来、親族の後見人等に関連する可能性のある人も少なく、地域で後見人養成講座や研修会等を開催するとしても必要とする受講者は極少で、さらに講師となる法律関係者、介護福祉士、施設職員などの専門講師を単独で確保する経費負担についても大変難しい状況です。</p> <p>※個別の相談や制度活用に至るまでの総合的な支援は、事情を掌握している市町村、又は社協で行うべきと考えています。</p> | <p>【その他】</p> <p>市民後見人は、被後見人を地域で支えるという観点からも、成年後見制度の本来の担い手であると考えております。中心市においては、市民後見人の養成に向けて、北海道事業との共催によりH25年度は砂川市で養成講座が開催され、H26年度は滝川市と新十津川町、妹背牛町が合同で養成講座を実施中で、今後は養成講座から実践講座に移行し、十分な知識と技術が身に付いた市民後見人を育成していくという進捗状況となっています。将来的な成年後見支援センターの設置検討を含め、ご意見について情報共有いたします。</p> | 意見集約シート |

| No. | 意見 | 意見に対する考え方 | 提出方法 |
|-----|--|---|-----------------|
| 9 | <p>定住自立圏構想について 滝川、砂川市は中心市としての役割から5市5町の自治体の特色を生かした公平な構想をたてることが基本である。 「甲乙ともに喫緊な課題」 1. 一次産業政策 圏内には立派な農地が作付されず休耕田となっている。食料の安定確保は生きるのに不可欠であり農畜産業の安定推進、後継者育成、生活環境の整備が急務である。 生産製品は圏域での地産地消を原則に安心安全な食糧の確保を推進する。</p> <p>2. 雇用 企業誘致政策は過去の実績から限界であり既存の地元企業の育成とともに雇用創出の条件的支援を行う。 働く場の確保は自治体の責任とも考える。</p> <p>3. 福祉 高齢者、特に老老介護者、独居老人対策は急務であり生活には危険も伴っている。 <u>老人施設の拡充を図り要介護の老人は希望により公的施設に受け入れ所得に応じた利用料金で対応できるよう拡充する。</u></p> | <p>【その他】 人気の高い特別養護老人ホームは、社会福祉法人や地方公共団体が運営する公的な施設であるため、比較的 low 料金で利用できるうえ、低所得者の方には軽減制度もあり、広域入所が可能で、国が在宅生活を重視し、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、グループホームなど多様な選択肢がある中、介護保険施設拡充には介護保険料への影響も伴うことから、各市町においては慎重な判断と見極めにより進めていきます。</p> | 意見集約シート |
| 10 | <p><u>自立支援協議会は障がい者の自立支援を目的に法的に必須になっているが、5市5町では設置されていないか、設置されていてもあまり機能できていないというのが現状。なぜかと言うと、単一市町ではインフラ含め限界がある。そのような中で10万人規模の中空知圏域で共同設置できれば、障害のある方を支える体制と言うのが充実していくのではないかと考える。共同実施や運用ができればと考えている。</u></p> | <p>【参考】 I-2. 福祉 現在、自立支援協議会については、滝川市、砂川市、赤平市、歌志内市、奈井江町、上砂川町、雨竜町において設置されています。運用状況等確認しながら、今後の検討の参考とします。</p> | 懇談会② |
| 11 | <p>子育て環境の充実 <u>ファミリー・サポートセンターという形で、単独の町では担い手もいないようなものについて、滝川市、砂川市と連携していければと考えている。</u></p> <p>【具体的取組について】 子育て環境の充実～保育サービスの充実 ・緊急ファミリーサポートセンター ・病児・病後児保育 I-3-(3)ア公の施設の相互利用の推進 施設の相互利用だけでなく、人的交流による人材の活用、職員の資質向上を図る（専門性の高い職種）</p> | <p>【参考】 I-2. 福祉 ファミリーサポートセンターについては、滝川市、砂川市に設置されていますが、会員の対象は市内に限定しています。中空知圏域への拡大について、今後の検討の参考とします。</p> | 懇談会② 意見集約シート |
| 12 | <p>子育て環境の充実 <u>病児・病後児保育という部分について、働きながら安心して子育てもできるという部分について具体化できるものがあるのではないかと考えている。</u></p> <p><u>病児・病後児保育というのは大切なことだと感じている。若い人が住みやすく、将来を担う子供達が沢山いるために、その部分を充実させるのは重要だと感じている。</u></p> <p>【具体的取組について】 子育て環境の充実～保育サービスの充実 ・緊急ファミリーサポートセンター ・病児・病後児保育 I-3-(3)ア公の施設の相互利用の推進 施設の相互利用だけでなく、人的交流による人材の活用、職員の資質向上を図る（専門性の高い職種）</p> | <p>【参考】 I-2. 福祉 病児・病後児保育については、滝川市に病後児保育が設置されていますが、対象は市内保育所入園児となっています。中空知圏域への拡大について、今後の検討の参考とします。</p> | 懇談会② 意見集約シート |

| No. | 意見 | 意見に対する考え方 | 提出方法 |
|----------|---|---|---------|
| 《教育》 | | | |
| 13 | 子育ての環境、 <u>高校の配置のあり方も広域圏で提案</u> された。行政の無駄が多い。 | 【その他】 現在中空知の高等学校数は、市立1校、私立1校、道立7校の計9校となっております。公立学校の配置については、定員の確保や教育水準の維持向上等を考慮し、北海道教育委員会が策定する公立高等学校配置計画により学校・学科の配置や規模の適正化が進められています。策定にあたっては、地域別検討協議会において、各地域で意見交換を行いながら進められていますので、各市町の教育委員会とも情報共有していきます。 | 意見集約シート |
| 《産業振興》 | | | |
| 14 | <u>中空知定住自立圏のホームページを立ち上げたら良い</u> のではないかと。ホームページから自分の興味のある5市5町の町へリンクできるようなものがあれば良いと思う。それによって、お互いの町を理解し合うこともできるし、圏外の方に情報発信もできるのではないかと。 | 【その他】 中空知広域市町村圏組合のホームページに「各種見どころガイド」や「イベント情報」が整備されており、各市町の情報が集約された形で掲載されています。また、各市町のホームページや「移住・定住」情報へのリンクもあり、入口としては既に整っているところですので、リンク先のページの充実や最新情報の提供、ページ自体の認知度向上に努めていきます。 | 懇談会② |
| 15 | 農業については野菜の生産が激減している。激減しているということは担い手が不足している。シルバー人材センターは滝川市と砂川市にあると思うが、 <u>農業者の希望に応じて人材派遣会社より年間延べ千人以上活用</u> している。しかし、多くは札幌や岩見沢へ依頼をしている。地元にはシルバー人材センターがあるので、農業の仕事とあわせて地域の産業起こしに活用できれば非常にありがたいと思っている。 <u>高齢社会だが、まだまだ元気で頑張れる高齢者が沢山いるので、農業所得を地域で稼いで地域でお金を落とすような、地域の産業として成り立っていくようなことができればと考えている。これまでも砂川の人材センターから派遣をしてお手伝いをしていたことがあるが、広域で工夫ができないものかと考えている。</u> | 【参考】 I-4. 産業振興 元気な高齢者の労働力を活かした雇用創出については、重要な視点と考えます。各市町における高齢者雇用の組織や登録者の状況等について調査し、今後の検討の参考とします。 | 懇談会② |
| 16 | <u>観光は外から来る人にとって特定の町に行きたいという人は少なく、北海道に行きたいとか、札幌近郊で回れる所へ行きたいというように求めているものが非常に広域的であるが、提供側は町単位なので、観光客にはわかりづらい。そういうものを広域的に提供していくという仕組みがあればと思う。先ほどホームページという話があったが情報提供だけでなく、中空知を回るようなパスポートというの也被えられる。</u> | 【その他】 中空知における広域的な観光の取り組みについては、中空知広域市町村圏組合の産業観光管理者会議において、産業振興や観光PR等について協議を行っていることから、同会議とも情報交換を行いながら進めていきます。 | 懇談会② |
| 《地域公共交通》 | | | |
| 17 | 地域公共交通について <u>バス路線については、中心都市にハブステーションを設置し、そこを軸として各圏域市町村間路線を運行し、各市町村は必要な地区内路線の運行を行う等、新たな発想で検討してはどうか。</u> | 【その他】 圏域内の市町間は、主に滝川ターミナルや砂川市立病院に連携する路線として、民間事業者が運行を行い、地区内や路線撤退した地域の交通について自治体が補完しています。民間活力を活用しながら、地域特性に応じた多様な交通サービスの組み合わせ等も考慮し、住みよい圏域となるよう、他圏域の事例などの情報収集にも努めていきます。 | 意見集約シート |
| 18 | <u>地域センター病院へ通院するのに病院にかかる足が無い。3回乗継をすれば行けるが、高齢になると乗継も大変。</u> <u>公共交通は民がぎりぎりの状況で、採算的な面で利便性を提供できない。そこに行政サービスとしてどう向き合っていくのか、単独ではできないことも5市5町が集まれば、もしかすると何か一つでも新しい取組ができるのではないかと</u> | 【既記載】 II-1-(1)ア 多様な生活交通路線の確保 圏域住民の移動手段の確保や利便性の向上を図るため、民間事業者との協議を行っていくとともに、自治体による補完の必要性等を考慮しながら、多様な交通手段の検討を行っていきます。 | 懇談会② |

| No. | 意見 | 意見に対する考え方 | 提出方法 |
|------------------|--|---|---------|
| <p>《交流・移住促進》</p> | | | |
| 19 | <p>～とにかく、5市5町を知りつくしましょう～</p> <p>原原案…5市5町の概況をどの程度把握しているのかチェックしてみました。当市を除いて82の○項目の33が知らなかったです。（名前は知っていても行ったことがない・食味していない）私の周り（7名）も似たようなものでした。「特産品・グルメ」・・・49のうち20が知らない、食べていない。</p> <p>「観光・名所」・・・33のうち13カ所行っていない。</p> <p>以上を踏まえて、</p> <p>*圏域の住民に上記内容のアンケートを実施。（その数字を分析することで意外な発見があるかも知れません）</p> <p>*<u>専用バス「中空知知っ得号」で季節ごとの視察研修</u>。（各学校・町内会・各種団体・他市町村等の視察研修交流なるものを考えてみたら如何でしょうか。</p> <p>例えば、1回1市町村を訪問、中学生なら研修先の中学生と様々な意見交換、そして訪問した地域にも来てもらい交流する中で5市5町が仲良く楽しく暮らせる夢を語らせたり希望をもたす内容にすれば、時間はかかっても何か得るものが確実にありそうです。</p> <p>また、性別、年代別、職種別の交流も双方の思いや期待するもの等が圏域の将来像に大きな役割を果たすのではないかと思います。</p> | <p>【修正】</p> <p>Ⅱ-3-(1)ア 交流推進、移住定住促進</p> <p>各市町が連携、協力しながら魅力ある圏域づくりを進めるうえで、お互いの市町を知ることは重要であることから、相互交流の取組について加筆します。</p> <p>具体的には、Ⅱ-3-(1)アに、“地域で育まれた生活文化や固有の風土等を知るために、相互交流に取り組む。また、“を追加し、視察研修交流について、今後の検討の参考とします。</p> | 意見集約シート |
| <p>《ICTインフラ》</p> | | | |
| 20 | <p>図書館の情報ネットワーク化もかなり進められていて、中空知で考えても5市5町がそれぞれ運営する時代ではなく、電子書籍化を進めるような中で、図書館の運用についてシステムをうまく活用しながら進めるという方法もある。</p> | <p>【その他】</p> <p>現状としては、圏域内図書館間の蔵書貸し借りや他市町住民への貸し出し、イベントの実施等についての連携を行っています。ネットワーク化に関しては、各図書館の蔵書目録の電算化状況や公開状況等が異なるため、サービス内容に違いが生じています。現在は、滝川市、砂川市、奈井江町、新十津川町は道立図書館の横断検索システムに参加しているため、圏域住民は4市町の蔵書検索が可能となっており、芦別市、赤平市においても参加に向けて進めています。引き続き、横断検索システムの活用含め利便性向上に取り組めます。</p> | 懇談会② |
| 21 | <p>図書館の相互利用の推進</p> <p>図書館をオンライン化して中空知定住自立圏内図書館同士のオンライン構築は、より効率的で相互利用の推進に寄与すると思うので、オンライン化とあわせてインターネット事業者が、公衆無線LANを中空知定住自立圏内図書館に設置。</p> <p>館内の指定した場所で個人のモバイル端末を使い所蔵本の検索等を含め利用者の利便性を図れればと思う。</p> | <p>【その他】</p> <p>相互利用の推進については、横断検索と図書館間の蔵書貸借の充実により進めていきます。館内での所蔵本の検索については、館内利用検索端末による検索機能の充実とあわせて公衆無線LAN設置による利便性向上を検討していくこととなりますが、各館の回線整備状況や利用者ニーズ等が異なるため、圏域図書館において、ご意見について情報共有します。</p> | 意見集約シート |
| <p>《人材育成》</p> | | | |
| 22 | <p><u>職員の研修や交流というものがあがるが、5市5町のそれぞれの職員が自分たちの町だけで仕事をしていますが、せっかく広域連携をするのであれば、少しくらいは他の町で仕事をしてみる。例えば中心市の滝川や砂川の仕事の経験をするような人事交流</u>というのは、決断一つででき、10年後、20年後の地域づくりをする中で、お互いの地域を理解した人材というのは地域にとっては大きな財産となる。</p> | <p>【参考】</p> <p>Ⅲ-1. 人材育成</p> <p>現状としては、各市町において、姉妹都市や国、道、一部事務組合、さらには民間組織等へ職員を派遣したり、圏域の職員を対象とした合同研修による人材育成を行っています。ご意見にありますとおり、圏域内の相互理解を深めるための人事交流等についても、今後の検討の参考とします。</p> | 懇談会② |
| 23 | <p>子育て環境の充実～保育サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急ファミリーサポートセンター ・病児・病後児保育 <p>I-3-(3)ア公の施設の相互利用の推進</p> <p><u>施設の相互利用だけでなく、人的交流による人材の活用、職員の資質向上を図る</u>（専門性の高い職種）</p> | <p>【既記載】</p> <p>Ⅲ-1-(1)ア 職員研修</p> <p>合同研修の開催等により、職員の資質向上を図っていきます。</p> | 意見集約シート |

| No. | 意見 | 意見に対する考え方 | 提出方法 |
|-------|---|---|---------|
| 《その他》 | | | |
| 24 | 18の協定項目で進めていくということを十分に理解した上で、この地域で協定項目を超えた分野での連携が必要との声が出てきた場合には、取り組んでいくようにしてほしい。パブリックコメントの中でも様々な視点での意見が出てくると思う。意見は意見として幅広く拝聴していくことが必要。 | 【その他】 11月のビジョン策定にあたっては、協定18項目による取組となりますが、ビジョン懇談会やパブリックコメントでのご意見については、行政側での検討等を行い、今後取り組むべきものはビジョンの見直し等を行います。なお、協定項目を超えるものは協定の変更について議会の承認を経るという手続きが必要となりますので、翌年度以降の進捗となります。 | 懇談会② |
| 25 | 国の施策との兼ね合いが精査されて協定内容ができていくという解釈で良いものなのか。砂川、滝川を中心とした5市5町が協定を締結した内容について全く異存はないが、5市5町の内容を理論的に、誰からも刺さりの入らないようなものを整理する必要がある。 | 【その他】 国の定住自立圏構想の趣旨に則りながら、中空知地域の特性や実情を十分に踏まえ、安心して暮らせる圏域づくりとなるよう進めます。 | 懇談会② |
| 26 | 5年間の事業費を積み上げて整理している状況で、下に見込で今後変更する可能性があるとの記載はあるが、ほとんどがH26年度の事業費を同額で置いているだけなので、計画として見るとどこまで意味があるものなのかとを感じる。今の時点で見越せない、基本的には今後同じような形で取り組んでいくのであれば、別途整理をしても良いのではないかと | 【修正】 定住自立圏推進要綱において、共生ビジョンの具体的取組には総事業費や各年度の事業費等の見込も記載することとなっています。北海道にも照会を行い、事業費の見込が立たないものは”未定”とし、現時点で見込まれる予定額、若しくは事業内容・規模が前年度と同程度と見込まれる場合には前年同額を記載しています。記載方法が不明確であったため、注意事項を追記しました。 | 懇談会② |
| 27 | 「圏域の将来像」とは1年先なのか5年先、10年先を示すのかにより具体的課題、取組のイメージもはっきりしてくるのかと考えます。 | 【その他】 ビジョンの期間である5年間の取組を実施していく中で目指す将来的な圏域の姿としています。ただし、5年という期間に限らず長期的に効果のある地域づくりとなるよう進めます。 | 意見集約シート |